

# 共育の丘だより 第6号 2016秋

山口大学 大学教育機構 大学教育センター ニュースレター



「山口大学は、教えるだけの教育ではなく、

教員と学生、あるいは地域と一体となって

発見し・はくくみ・かたちにすることで共に高め合い、

未来を拓く『共育』を目指しています」

『2014 山口大学案内』より

共育の丘（山口大学 吉田キャンパス）

## 巻頭言

山口大学生の英語力を高めるため、来年度から共通教育の英語カリキュラムが大きく変わります（独自カリキュラムを採用している共同獣医学部と国際総合科学部を除く）。新カリキュラムでは、TOEICスコアによる単位認定の制度は廃止され、すべての学生が1年次の前期と後期を通して週2回の授業（Reading/Writingの授業とListening/Speakingの授業）を受講します。その結果、これまで6単位だった共通教育の英語の必修単位数は8単位となります。また、TOEICスコアを卒業要件とするかどうかは、それぞれの学部の判断に任せることになりました。2年次以降の英語教育の改善も合わせて、「共通教育終了時にTOEICスコア500点以上の取得者が全学生の50%以上、卒業時にTOEICスコア600点以上の取得者が全学生の50%以上」となることを目指して、準備が進められています。

「学生FDサミット2017春」が、来年3月2日と3日に山口大学で開催されます。「学生FD」は、授業や教育の改善に関心を持つ学生が、大学側との連携を求めつつ、改善のために主体的に取り組む活動です。「学生FDサミット」は、2009年から続けられている全国会議で、学生はもちろんのこと学生FD活動に関わる教職員も多く参加しています。今回は、山口大学で開かれるというまたとない機会です。学生、教職員の皆さんに関心を持っていただければと思います。今号の記事にも関連したものがあるのでお読みください。

（朝日孝尚 山口大学 大学教育機構 大学教育センター長）

## INDEX

- P1 巻頭言
- P2 大学教育センターの動き
- P3 学生FDサミット2017春 抱負
- P4 -5 学生FDサミット2016夏 参加記
- P6 共育ワークショップ2016
- P7 新スタッフ紹介&山口探訪記
- P8 編集後記

【※本ニュースレターは、（公財）山口大学後援財団「学生の就職支援・教育環境の改善等助成事業」の支援を受け、編集・刊行しています。】

# 大学教育センターの動き

## FD・SDとは？

### はじめに

FDはFaculty Developmentの略称で、「教員が授業内容・方法を改善し向上させるための組織的な取組」を指します。SDはStaff Developmentの略称で、「事務職員や技術職員など職員を対象とした、管理運営や教育・研究支援までを含めた資質向上のための組織的な取組」を指します(中央教育審議会答申・用語集より)。

## 3つのポリシー見直しとYU CoB CuS導入検討進む！

今年度の教育改善FD研修会では、3つのポリシー（ディプロマ・ポリシー、カリキュラム・ポリシー、アドミッション・ポリシー）の見直しとYU CoB CuS（Yamaguchi University Competency-Based Curricular System）導入をテーマに、各部局への説明と意見交換が行われています。

3つのポリシーの見直しに関する経緯として、2005年1月の中央教育審議会答申『我が国の高等教育の将来像』を契機として、3つのポリシーの策定による学習成果基盤型教育が推奨されるようになり、2014年12月の中央教育審議会答申（高大接続答申）において、改めて、3つのポリシーの一体的な策定が求められ、2015年度には中央教育審議会大学分科会大学教育部会での検討を経て、2016年3月末に、学校教育法施行規則の一部改正による3つのポリシーの公表義務化、さらには、『卒業認定・学位授与の方針』（ディプロマ・ポリシー）、「教育課程編成・実施の方針」（カリキュラム・ポリシー）及び「入学者受入れの方針」（アドミッション・ポリシー）の策定及び運用に関するガイドライン』が提示されました。本学では全学的なワーキンググループを設置し、当該ガイドラインに基づき、3つのポリシーの見直し作業を進めています。特に、ディプロマ・ポリシーでは「学生が身に付けるべき資質・能力の目標を明確化すること」、カリキュラム・ポリシーでは「ディプロマ・ポリシーを踏まえた教育課程編成、学修方法・学修過程、学修成果の評価の在り方を具体的に示すこと」、今後の認証評価では「3つのポリシーによる教学マネジメントのPDCAサイクルが重要視されること」を言及しています。

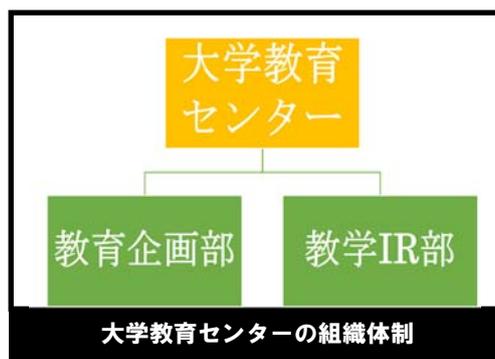
また、YU CoB CuSの検討については、先行導入している国際総合科学部及び人文学部の事例を紹介しながら、現行のカリキュラムマップ、カリキュラムフローチャートに基づく作成作業の方向性に関する説明を行っています。



全学で実施されている教育改善FD研修会

## 大学教育センターに教学IR部を設置！

2016年4月から、大学教育センターの部門が、従来の「教育企画・実施部・教育評価部」から「教育企画部・教学IR部」に改編されました。この改編は、大学の長期ビジョンである『明日の山口大学ビジョン2015』及び第3期中期目標・中期計画で定めた事項を実現したものです。ここ数年、山口大学では数多くの教育改革の取組が行われていますが、その検証作業や学生の学修成果アセスメントの可視化をテーマに具体的な分析・提案を行っていきます。初年度である2016年度においては、2013年度に導入された「新しい共通教育」の検証作業を行い、その結果を説明・公表することとしています。



大学教育センターの組織体制

# 学生FDサミット2017春 ～山口大学～

## Borderless Campus

### ～学びのフィールドはどこにある？～

札幌大学での学生FDサミット2016夏が終わり、いよいよ山口大学でのサミットが本格化してきました。山口大学のサミットテーマはBorderless Campus～学びのフィールドはどこにある？～です。このテーマは学生スタッフだけでなく、**教員・職員・他大学の学生FDスタッフも交えて決定した思い入れのあるもの**となっています。このテーマには、新時代の学生FDを、これまで培ってきた**先人の思いを受け継ぎつつも新しいステージへ昇華**していこうという強い思いが込められています。

時代の変化とともに大学生に求められる学びの形も変わります。昨今の大学教育改革では、**地域社会や国際社会における急激な変化**に向き合い、主体的に学び、より良い**社会づくりに貢献していくことのできる人間**を育てることがあらゆる**大学教育機関に課された使命**とされています。教室の中の学びだけではなく、**インターンやサービラーニング等の大学外に飛びだして学ぶ**という選択肢も必要となるでしょう。それらは都会か地方かなど、当該大学を取り巻く状況に依存して形態が変わります。それに伴い学生の学びも大きく異なるでしょう。つまりそれぞれの大学の使命を一元化できない時代となっているのです。

山口大学のサミットでは**大学の学びのダイバーシティをポジティブに捉え、その大学オリジナルな学生FDを考えることを目指します**。このような目標を掲げる以上、私たち山口大学が大学外との連携も組み込んだ学びの場作りにおいて先陣を切らねばなりません。困難な課題ではありますが、私たちが活動を続ける中で、この課題に対する解答に近づいてきたという自信があります。**山口大学だからこそできる学生の学びと成長を通じた地域への貢献**。これらを表現し、伝え、そして**日本中の大学にも新しい風を吹かせるという強い使命を持って2017年3月のサミットに臨みます**。学生の未熟な力だけでは達成できないこともあるでしょう。精一杯がんばりますのでご協力よろしくお願いします。



( YC.CAMメンバー 奥田真也 経済学部4年 )

# 学生FDサミット2016夏！

～in札幌大学～



9月6日(火)7日(水)、全国の大学から学生FD活動に取り組む学生・教育職員・事務職員が一堂に会し、各大学における活動や成果を発表し合い、大学教育における課題等を共有し議論するイベント【学生FDサミット2016夏】が札幌大学を会場に開催されました。北海道でサミットが開催されたのは今回初めてです。

「僕たち私たちが考える理想の大学」をテーマとし、架空の「どさんこ大学」入学という設定のもと、①学生FDの実践的方法、②理想のカリキュラム、③地域連携と大学間連携の3つの課題について、討論が行われました。全国34大学約200名が26のグループに分かれ、それぞれ活発な議論を展開し、最後には各グループからの発表が行われました。

サミットは、オープニングから素晴らしく、北海道一周をサミットのためにし、その旅行記を、司会二人のおもしろい掛け合いを通して、北海道の土地を分かりやすく教えて頂きました。驚くべきことに、司会の二人は場の空気を読んでその場で即興のアドリブを話していたそうです。初めて参加した人でも最初から楽しめるサミットになっていると感じました。

今回のサミットの最後に、山口大学が次回の【学生FDサミット2017春】開催場所だとアピールをしました。私たち学生3名は、安倍晋三、高杉晋作、そして石川佳純のコスプレをして山口を紹介しました。会場内の反応がよかったので、よっし印象に残ったと感じました。

サミットを通して、近隣大学である島根県立大学や広島経済大学と交流を深めることができ、今後も連携を強くしていければ良いなと思っています。

( YC.CAMメンバー 古谷晃一 農学部4年 )

## タイムテーブル

<1日目：9月6日（火）>

9:30 受付開始

10:00 オープニング

13:30 しゃべり場1

15:30 しゃべり場2

17:30 懇親会

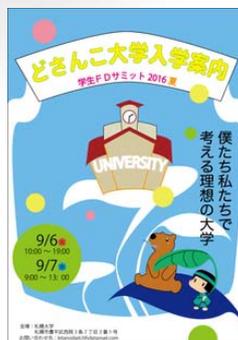
<2日目：9月7日（水）>

9:30 オープニング

10:00 振り返りまとめ

11:00 ポスターツアー発表会

12:30 エンディング



# 参加者からの便り

## YC. CAMメンバ - 田中大智 工学部1年

北海道で印象に残っていた出来事は、FDサミットの最後に3月2日、3日にある山口大学でのサミットの紹介と、グループワークによる学生FDの実践的方法についての議論です。僕は大勢の人に発表することが苦手なためとても緊張していました。しかし、山口大学の仲間や会場の皆さんから励ましてもらい無事に最後まで終わることが出来ました。そして、議論では他の大学の現状を知ることが出来ました。この北海道の体験をいかして山口大学FDサミットも頑張ります。

## YC. CAMメンバ - 岡寛範 経済学部1年

私は今回のサミット参加によって、自分の持つ視野を大きく広げることができたと実感しています。日本全国の学生FD活動に携わる方たちと、理想の大学像についてグループワークをするという貴重な体験を通して、これまで知らなかった他大学のFD活動などについての多くのことを知ることができ、自分自身の成長につながったと思います。

これから先の学生FD活動に携わるメンバーの一員として、今回の経験で得たものを活かしていきたいと思っています。

## 山口大学職員 野村治宣

初めて学生FDサミットに参加しましたが、学生さんの熱い思いを感じることができました。今まで学生系の業務をしていなかった私には斬新なサミットでした。

他大学（国公立及び私立大学）の状況や、学生さん・教員の方々の考え方など、今まで触れることのできなかつた考えに触れることができる良い機会になりました。来春の全国学生FDサミットは本学で開催されますが、本学の学生さんがどのようなサミットにするか、期待したいと思います。



# 共育ワークショップ2016

## 「みんなで大学の教育（共育）について語ろう！」



今回、僕は共育ワークショップに初めて参加しました。初参加で共育ワークショップがどんな企画なのかをあまり分かっていない状態で準備委員として企画作成に携わることは、とても難しく感じました。しかし、準備委員には初参加の方も多く、初参加だからこそ成功させるために頑張らなければならないという使命感や教職員の方々の先導もあり、不安なく企画づくりに参加することができました。違う立場の方々と意見を出し合い1つのものをつくることは、自分にはない考え方に触れることができ、改めて面白いと感じました。

また、共育ワークショップ当日は山口大学の学生・教職員だけでなく、他大学の学生も参加され、色々な方の考えや意見を聞くことができ、楽しく企画に参加することが出来ました。意見がなかなか出ず行き詰まる時もありましたが、そんな時に言った突拍子のない意見から場の雰囲気が変わることもあり、迷った時こそ行動（発言）してみることは大切だと思いました。

[共育ワークショップ2016準備委員会メンバー 生協学生委員会 平岩直也 理学部2年 ]



元・立命館大学教授 木野 茂  
法政大学職員 平野 優貴



全員で記念撮影

### 1日のタイムスケジュール！！

日時：2016年9月26日（月）

場所：総合図書館アカデミック・フォレスト

13:30～13:40 開会挨拶・趣旨説明

13:40～14:20 基調対談「学生FDの原点と未来へのメッセージ」

14:20～14:30 オリエンテーション

14:30～16:30 グループワーク

16:30～17:20 全体発表

17:20～17:30 クロージング・閉会挨拶

この度、共育ワークショップの準備委員として参加させていただいて、様々な方との交流をもつことができました。高校とは違い疎遠になってしまった先生方や職員さん、上級生など、普段あまり交流を持つことが少ない方々との交流が目新しく、とても新鮮に思えました。準備段階では、用事が重なり、あまり参加することができなく申し訳なく思っていますが、共育ワークショップ当日の運営に少しでも関わることができてよかったです。当日は山口大学の方々のみでなく、他大学の方々が、遠い所から来てくださり、本学以外の意見が聞けたことで新しい視点を持つことができました。来春、山口大学で「学生FDサミット」が開催されるためのプレイベントではありましたが、共育や学生FDについて触れられる良い機会となりました。

[共育ワークショップ2016準備委員会メンバー 生協学生委員会 能沢育未 経済学部1年 ]

# 新任スタッフ紹介

## 齋藤 有吾 助教(特命)

### !!自己紹介!!

はじめまして。本年10月1日より山口大学 大学教育機構 大学教育センターに助教として着任いたしました齋藤有吾と申します。私はこれまで京都大学教育学部、及び同大学院教育学研究科にて高等教育における教育測定を専門とし、研究をしてまいりました。また、大学院を出た後、本年9月末まで同大学高等教育研究開発推進センターにて勤務しながら、同様の研究を続けてまいりました。

研究内容に関して、もう少し詳しく述べさせてください。あなたは何かしらの面接試験を受けに行ったとします。そのとき面接官から、「あなたの問題解決能力はどの程度か説明してください」と問われたとします。そんなこと突然言われても困りますよね。しかし、そういったことが大学入試や就職試験で問われるかもしれない時代になりました。

問題解決能力のような、単純な多肢選択式問題などでは測れないような能力を、信頼性・妥当性が担保されたかたちでどのようにして測ることができるのか。それを主に統計学的手法を用いて検討するのが私の研究です。また、得られた評価情報を、教育的に意味のあるかたちでどのように利用できるのか、あるいはそこから何がわかるのか。そのようなことを探究する研究にも取り組んでまいりました。

山口大学は、全学的なアクティブ・ラーニング型授業、地域社会が求める人材を育成するプログラム、教員や職員だけでなく学生もFDに携わる活動など、非常に先進的で魅力的な教育的取組を行っています。そのような環境で、山口大学の学生の皆様がどのような学びと成長をみせるのかを、私のこれまでの研究を活かしながら詳らかにし、さらにそれを日本全国へ広めることに貢献出来たらと考えております。どうぞよろしくお願いいたします。



Ugo Saito



### やまぐち探訪記 第六回 (長門市仙崎)

この夏、久しぶりに、長門市仙崎を訪ねました。今回の目的は、みすゞ七夕笹祭りの参加、本年春に設置された「山口大学・仙崎まちなか未来研究所」への訪問でした。当日は、創成科学研究科 社会建設工学分野 都市・社会システム工学研究室と仙崎中学校生徒との交流会にお邪魔しました。何より驚いたのは、みすゞ七夕笹祭りの盛り上がりでした。過去数回、友人や家族を伴ってみすゞ通りを訪ねましたが、大勢の人たちが通りを埋め尽くしている夏祭りの光景を見て、街全体の活気を感じました。



長門市の地名は、やまぐち地域が古くは周防と長門と称されていたことに由来しています。最近では、金子みすゞの発掘のほか、元禰之隅神社の観光スポット人気など、全国から注目を集めているエリアです。本年12月の安倍首相とロシア・プーチン大統領の首脳会談、来年度から本格化する長門湯本温泉の星野リゾートによる温泉地改革など、話題に事欠かない長門市の取組から目が離せません。

さあ、皆さんもぜひ、歴史文化と自然資源豊かな長門の地に足を運んでみては、いかがでしょうか。やまぐちの探訪の旅はまだまだ続きます。



**学生FDサミット2017春**  
 @山口大学吉田キャンパス  
 (山口県山口市吉田1677-1)  
 2017年3月2日(木)・3日(金)

**Borderless Campus**  
 ~学びのフィールドはどこにある?~

### 編集後記

共育の丘だより第3号から編集に携わせて頂き、早いもので第6号を発行する事となりました。編集作業・記事作成等にご協力いただきました皆様に感謝いたします。2017年3月2日、3日に山口大学にて「学生FDサミット2017春」が開催されます。学生達の新しい発想に期待し、微力ではありますが貢献出来れば幸いです。(YU-AP推進室 河口美由紀)



大学教育センター 林 透  
083-933-5067



林 透(担当教員)  
 toru-h@yamaguchi-u.ac.jp  
 奥田 真也(代表)  
 t062ca@yamaguchi-u.ac.jp



<http://www.epc.yamaguchi-u.ac.jp/>

YC.CAMのページはこちら



<https://www.facebook.com/yamadaFD>

### 編集チーム

- 林 透  
(大学教育センター准教授)
- 斎藤 有吾  
(大学教育センター助教(特命))
- 河口 美由紀  
(YU-AP推進室)
- 奥田 真也  
(経済学部4年、YC.CAMメンバー)
- 古谷 晃一  
(農学部4年、YC.CAMメンバー)
- 田中 大智  
(工学部1年、YC.CAMメンバー)
- 岡 寛範  
(経済学部1年、YC.CAMメンバー)

発行:  
**大学教育センター**  
 (2016年11月22日 発行)

大学教育は、大学教職員、学生、地域をつなげます